

## ー シンポジウム ロコモ認知度向上に向けた喫緊の課題ー

### ロコモコーディネーター活動の展開

二階堂 元重

(目的)高齢者の個別的集団的支援等を行う医療介護専門職「SLOC ロコモコーディネーター制度」が、発足して6年。これまで全国15都市で16回の資格取得研修会を開催し、計1,975名に資格を付与している。

今回全国29施設よりロコモコーディネーター（以下LC）の活動状況について知る機会を得たので、その内容を報告するとともに本制度が国民のロコモ認知度向上に対し有用か否かについて考察する。

(方法) 本年2月2日東京で開催されたSLOC第1回LC全国大会の中で、優秀なロコモ予防啓発活動に対し表彰する企画「ストップ・ザ・ロコモ！アワード」において全国から29編の論稿を受稿、その全ての活動内容について分析した。

(結果)29施設の内訳は診療所16・病院9・地域包括支援センター、介護サービス事業所、通所介護施設、特別養護老人ホーム各1施設であった。

活動内容は、自治体に関わる事業として介護予防教室6（院内1・サロン5）、ボランティア養成講座2、市民公開講座2、ロコトレ効果の検証評価事業1 施設固有の事業として介護予防教室20（院内15・サロン5）、子どもロコモ予防教室3、定期的ロコモ検診2、ロコモ予防外来開設1、特定健診介入1、労働者健康管理事業介入1、医療介護従事者講習会講師1、冊子、DVD制作2と多種多様に及んでいた。

(考察)介護予防教室運営は、院内、院外を問わず、地域での高齢者の運動のみならず社会参加提供のサロンとして年々参加者が増加しており、その傾向として多職種連携、参加者能動型プログラム運営を特徴としている。

また特定健診、産業医事業の場でロコモ検診、ロコトレ介入する試みは今後ロコモ認知度向上の方向性として興味深い。

本法人が国民全年齢層にわたり、ロコモ認知度向上を目的として健康づくりへの意識行動変容を呼びかけていくには、自治体との連携が重要である。

その中でLCが運動・生活習慣改善の支援のみならず、認知度向上の使者として果たす役割は極めて大きいと考える。